

日本ジオパーク再認定審査結果報告

平成 26 年 12 月 22 日
日本ジオパーク委員会

- 日本ジオパーク委員会は、以下の 4 地域のジオパークについて 4 年ごとに行う再認定審査を実施し、2 地域を再認定、2 地域を条件付き再認定とした。
再認定：室戸、霧島
条件付き再認定：白滝、伊豆大島
- 4 地域に、審査の過程で明らかになった改善すべき点をまとめた再認定結果報告書を送付し、どう改善するかまとめたレポートの提出を求める。より良いジオパークとなるよう、日本ジオパーク委員会は日本ジオパークネットワークと協力して助言を行う。
- 条件付き再認定となった白滝ジオパークと伊豆大島ジオパークについては、2 年後に指摘された課題が改善されているかどうかあらためて審査する。

■ 審査で明らかとなった各ジオパークの活動状況の概要 ■

白滝ジオパーク

黒曜石が産出するジオサイトや、地域の生物多様性の保全についての活動は、丁寧に行われており、また、地域素材を活かした教育活動が展開され、JGN 加盟認定時から前進がみられる。ジオパーク交流センターが新たに整備され、地球科学的内容や考古学的内容について学ぶことができる。このジオパークの教育、ジオツアー拠点としては、質の高いものとなっていて、また、埋蔵文化財センターや昆虫生態館などでは、地域の自然・文化資産を活かした活動が行われている。このように、ジオパークの活動をすすめる基盤は整いつつあり、活動が徐々に進んでいる。

今後、地域全体でジオパークに取り組む体制を作り、ジオパーク内の全てのエリアを結びつけるジオストーリーを構築し、地域内の人的交流を積極的に行いながら、地域資源を包括的に活かすジオパークとなることが課題である。2 年以内にこれらの課題へ対応することを条件に、再認定とする。

伊豆大島ジオパーク

伊豆大島ジオパークでは、認定時に問題点として指摘された点の改善が進み、諸機関や観光協会等との連携のもと、三原山山頂でのジオパーク展やガイド、観光客向けの火山情報

の揭示など先進的事業が実施されてきた。また、2013年10月には多くの犠牲者を出し、地域に被害をもたらした土石流災害が発生したが、調査結果の住民への還元や災害からの教訓を語る活動が行われるなど、たいへん有意義な事業が行われた。さらに、来訪者に感動を与える質の高いガイド活動や住民による自発的な研究会が実践されている。

しかし、これらの優れた活動の継続性を担保し、総合的視点で推進するための計画整備、組織体制が不十分である。2年以内に課題へ対応することを条件として、再認定とする。

室戸ジオパーク

プレートの沈み込みに伴い起こる付加体の形成や巨大地震と津波、そしてそれに伴う地盤の隆起といった地球活動、およびそれと人の暮らしとの関わりがよくわかる地域である。地域住民が主体的にジオパーク活動に参画し、地形・地質遺産や各種自然・文化遺産の保全が進むとともに、地元の企業や商店、宿泊施設、メディア等が一丸となってそれらが活用されており、ジオパークを通じたボトムアップ型の地域振興が進んでいる。さらに平成27年4月の「室戸世界ジオパークセンター」のオープンが、地域住民のジオパークへの期待を一層高めている。今後は、ジオパークの長期的ビジョンを示したアクションプランの策定や、地域内の明確な情報共有の仕組みの構築、系統的な防災教育の実施、等の課題解決に取り組んで欲しい。以上のことから、日本ジオパークに再認定とする。

霧島ジオパーク

霧島火山群の生い立ちを、植生の変化や神社移転の歴史からさぐる優れたジオストーリーがあり、火山防災が進んでいる。拠点施設の展示も充実し、道の駅や観光案内所などでのジオパークの情報発信も進むとともに、自治体の壁を越えた連携も徐々に進み、ジオパークの視点を取り入れた地域振興やジオ商品の開発などが進みつつある。今後、産業や暮らしの視点からジオストーリーを強化し、観光客の導線を意識した案内システムの構築が望まれるが、これらを実現できる組織や運営体制、活動計画がある。以上のことから日本ジオパークに再認定とする。

日本ジオパーク認定審査結果報告

平成 26 年 12 月 22 日
日本ジオパーク委員会

- 前回（第21回）委員会において、日本ジオパークネットワーク（JGN）への新規加盟を保留とした苗場山麓地域について、運営体制等の改善が確認されたため、新規加盟を認めた。
- これにより日本ジオパークは 29地域、世界ジオパークが7地域、日本ジオパークネットワーク加盟地域は併せて36地域となった。

■ 地域の特徴と保留解除の理由 ■

苗場山麓ジオパーク

大規模に発達した河岸段丘の上には、沖ノ原遺跡などをはじめとする縄文遺跡がいくつも存在し、火焰型土器などの特徴的な土器類の発見が多い。また、秘境とも称されるような谷深い場所の文化を色濃く残している地域である。谷深い地形や、湧水、風穴などこの地の暮らしは、苗場山や鳥甲山の溶岩の影響を受けており、河岸段丘と共に地質・地形とのつながりが強く感じられる。地域内でのジオパークとしての取り組みが活発に行われつつある。ジオパークとしての具体的な活動及び整備を保証する明確な計画書の提出まで保留とされたところ、地学専門員や防災・観光担当者の増員による事務局強化をふくむアクションプランが提出され、その内容が適当と判断されたため保留を解除し日本ジオパークとして認定する。なお、考古学と地形・地質学など全体を融合させたテーマ・ストーリーの構築が重要である。